

東奥日報

2017年(平成29年)11月2日 木曜日 (14)

八戸 市中心街の課題 八工大生が調査

八戸工業大の学生が八戸市中心街を調査・研究の場として、街が抱える課題の解決策を考える授業が本年

度も始まった。10月31日の第1回講義では学生らが現地見学を行うなどし、現状を把握した。(岩村史生)

破損した歩道 改善策は？

実践型授業、今年も開始

八工大、八戸市、第三セクター「まちづくり八戸」の3者が昨年10月に取り交わした覚書に基づいた授業で、前年度に続き2年目。



歩道の破損状況を調べ、写真に収める学生ら

本年度は土木建築工学科土木工学コースの3年生38人が調査・研究に取り組む。来年度1月末をめどに結果を取りまとめ、市などに報告する。本年度の授業には市内コンサルタント会社6社が協力する。

取り組む課題は、前年度からテーマとしてきた「花小路整備」関連のほか、本八戸駅から屋内スケート場(整備中)までの安全な歩行空間の検討、本八戸駅通りにぎわい創出など市が設定した計6項目。

第1回講義で学生らは、十三日町のチノはちのへ内にある八工大産学連携プラザで座学を受けた後、取り組む課題ごとに6グループに分かれて、それぞれ街に出て調査などを行った。

齋藤晃さん(21)をリーダーとするグループは中心街の表通り・国道340号沿いの歩道に敷設されているタイルの破損が目立っている原因の調査や修繕策などの検討が課題。齋藤さんは、仲間とともに破損箇所を写

真に収めるなどしながら「あまり意識したことなかったが、思った以上に歩道がゆがんだり壊れたりしていた。さまざまな年齢の人が歩く場所なので何らかの改善方法を提案できれば」と意欲を示した。

同グループを指導する外部講師で元市職員の吉田孝男さん(65)は「自身の経験、知識を学生に少しでも還元できれば」、同大の金子賢治教授は「学生たちには授業で身に付いた知識を実際に社会で役立てていくための能力を身に付けてもらいたい」と話した。

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」